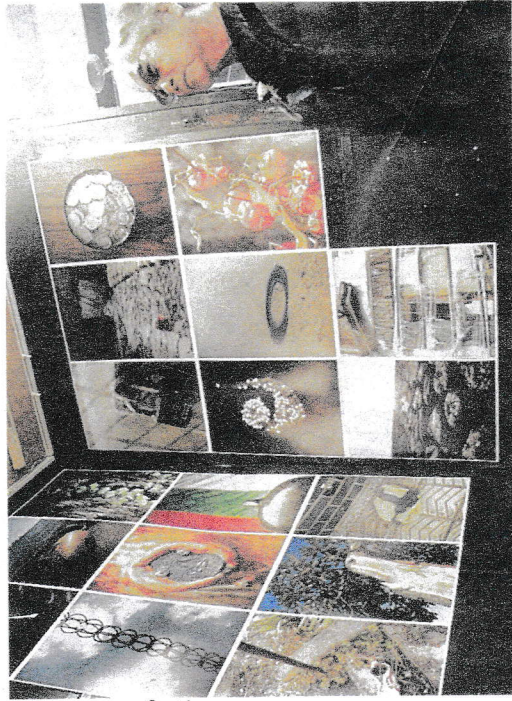


日常風景 独自の視点で

映画プロデューサー 鵜久森さん
兵庫区写真展で40点披露



独自の視点で日常を切り取った写真が並ぶ＝
兵庫区神田町

映画プロデューサー 鵜久森典妙さん(69)「西宮市」による写真展「あとらんだむが、兵庫区神田町の「いちばきやらりい俵香」で開かれている。日常生活で出会った光景を独創的な視点で切り取っている。11日まで。

鵜久森さんは約30年におたり、ドキュメンタリー映画の自主製作に取り組む。ハンセン病やアトピーなどをテーマとする作品を手掛けてきた。15年ほど前から写真撮影を続け、毎年同ギャラリーで写真展を開いている。

今回は、川面の藻に集まるサクラの花びらや、道端に誰かが落としていった麦わら帽子、木の根に押し上げられて波打つコンクリートなど、40点をランダムに

紹介。「面白いと感じた瞬間ばかり。一枚一枚の写真から静かな生命力やドラマを感じ取ってほしい」と話す。

午前11時～午後6時。無料。監視カメラを写した写真25点も展示。6日には活動弁士の井上陽一さんによる無声映画の上映会もある。いちばきやらりい俵香

☎078・361・5055
5 (貝原加奈)